

P-15 現代モンゴル語の deer「上」の後置詞としての意味と用法

—とくに与位格との対照から—

山田洋平 バスバヤル・ムンフダラム

(東京外国語大学)

【要旨】現代モンゴル語の deer「上」という語は、後置詞として用いられて、「上」という相対的な位置の意味から離れて単に「～(の)ところ」に/で」というような場所格的な意味を表すことがある。現代モンゴル語において場所を表すための文法要素としては与位格もあるが、これらの間の使い分けは従来明らかにされていない。本研究ではコーパスを用いた用例の分析や与位格との置き換えテストを通じて deer の意味と使われやすい環境を検討した。結論として deer という語は本来的な「上」の意味が強調される場合などに用いられるほか、非典型的な場所名詞句が項となる場合にも用いられる傾向にあることを示す。

1. はじめに

本発表では、現代モンゴル語 (モンゴル国で行われるモンゴル語の書き言葉及びハルハ・モンゴル語を主に指す) の deer「上」という相対的な位置を表す語について、とくに後置詞的な用法に焦点をあてて考察する。この deer は従来「上」という意味であると解釈されるが、とくに名詞句を従えて後置詞的に用いられる場合、単に場所を表す格に似た機能を果たす。

ここで問題になるのが、場所を表す格として典型的な与位格との使い分けである。本研究ではコーパスから得られた用例をもとに、与位格との置き換えが可能かといった観点から deer という語の意味と用法について検討していく。

本発表の構成は、次の通りである。まず 2 節で先行研究とその問題点、3 節で調査方法を述べる。4 節で調査の結果を示し分析を行う。5 節で本研究のまとめと今後の課題を示す。

以下に示す例文やラテン文字転写、グロス、日本語訳、文字飾りは断りのない限り発表者によるものである。ラテン文字転写の対応は以下の通り (ブラケット [] 内は代表的な音価)。a=a, б=b, в=v [β], г=g, д=d, е=je/jö, ё=jo, ж=ž [dʒ~tʃ], з=z [dz~ts], и=i, й=j, к=k, л=l [ʎ], м=m, н=n, о=o [ɔ], ө=ö [ø], п=p, р=r, с=s, т=t, у=u [ʊ], ү=ü [ʉ], ф=f, х=x, ц=c [tʃh], ч=č [tʃh], ш=š [ʃ], ь=’’, ы=y [i:], ь=’, э=e, ю=ju/jü, я=ja。出典が示されていない例文は MNS コーパス (3節を参照のこと) による。

2. 先行研究

以下では、本発表で問題となる deer「上」という語についての記述 (2.1) と、これと関連する場所を表す文法表現についての記述 (2.2) をまとめる。2.3 で先行研究の問題点を指摘する。

2.1. deer「上」について

deer「上」という語は、door「下」、dotor「中」などととも位置関係を表す語として場所語 (ムンフダラム 2024: 84)、時位詞 (时位词, 清格尔泰 1991: 208-220) などと呼ばれたり、後置詞として扱われたり (向井 2006, Kullmann and Tserenpil 2015 など) する語である。清格尔泰 (1991: 208) は deer を含む時位詞を静詞類の下位に位置づけ、名詞に近いものであるとしている。時位詞はさらに名詞型・形容詞型・副詞型に分類され、deer はこのうち名詞型に属する (ibid)。

『モンゴル語辞典』(Mongol Xelnij Ix Tajlbar Tol) では、deer という語の語釈を10項目に分けて記載している。その 9つ目に「場所を指す意味」があげられ、次の例が提示されている。例文中の分析では deer という語を独立語であると見做し、以降、一律 DEER というグロスを付す。

- (1) *ajmag deer oč-ix* (2) *xödöö+až+axuj deer ažilla-x* (3) *darga deer or-ox*
県 DEER 行く-FUT 農業 DEER 働く-FUT 社長 DEER 入る-FUT
「県へ行く」 「農業 (の分野) で働く」 「社長のところに行く」

このうち (1) については意味の説明として *ajmag-t oč-ix* {県-DAT 行く-FUT} とあり、deer が後置詞的に用いられ、かつ与位格に置き換え可能であることが示唆されている。

向井 (2006d) は deer の後置詞的な用法として、裸または属格形の名詞を支配し、「～の上に」「～の表面に」「～で/に」「～のところで/に」「～のところに (空間的帰着点)」「～に加えて」という意味を成すとしている。

支配される名詞が裸の場合は密着した「～の上に」、属格形の場合は空中の「～の上に」であるという(向井 2006d)。

なお、向井(2006d)は「裸」とは記載せず、実際には「N交代語幹がある場合に交代」とのみ注記している。本発表ではこの形式を格接辞が付されないという意味で仮に裸と呼ぶこととする。

「N交替語幹」とは語幹末に子音 n が出現した形式を指す。子音 n の出現の有無は、語彙的に条件づけられていると考えられる。本発表においては、この子音 n を形態素 -n と分析し、グロスでは N として示す。deer が支配する語に要求する形式については山田(2023)で若干の考察を行った。代名詞の場合はまた別の斜格語幹が用いられる。

2.2. 場所を表す文法表現

モンゴル語で行為を行う空間、存在する地点、移動の目的地などの場所を表す文法表現として典型的なのが、与位格である。向井(2006a)によると、与位格の表しうる意味は間接目的語、空間的場所、抽象的位置、空間的帰着点、抽象的帰着点、時点、行為の目的に分類される。

この他に、これに類する文法的機能を果たすものとして、造格と方向格がある。造格には道具や手段を表す用法と並び、通過点(「～を通過して」「～で何らかの行為を行って」)、抽象的な場(「～の席で」「～の場で」)といった場所を示す用法がある(向井 2006b)。方向格は「～の方向へ」「～に向けて」「～のほうへ」という意味を有する(向井 2006c)。

2.3. 先行研究の問題点

deer「上」の後置詞としての用法について、向井(2006d)を除くと断片的な記述しかない。向井(2006a~d)の一連の記述では後置詞としての deer の用法やその他の場所を表す文法的表現について詳細な意味記述があるが、これらの間の関係や使い分けについて記載がない。とくに後置詞としての deer の意味のうち「～で/に」「～のところで/に」「～のところに(空間的帰着点)」は与位格の一部の意味役割と重なるように見えるが(図1)、どの程度重なるのかは明確ではない。実際には、例えば deer も与位格もともに使用可能な文脈や、いずれか一方しか使えない場合というのがあるものと考えられる。

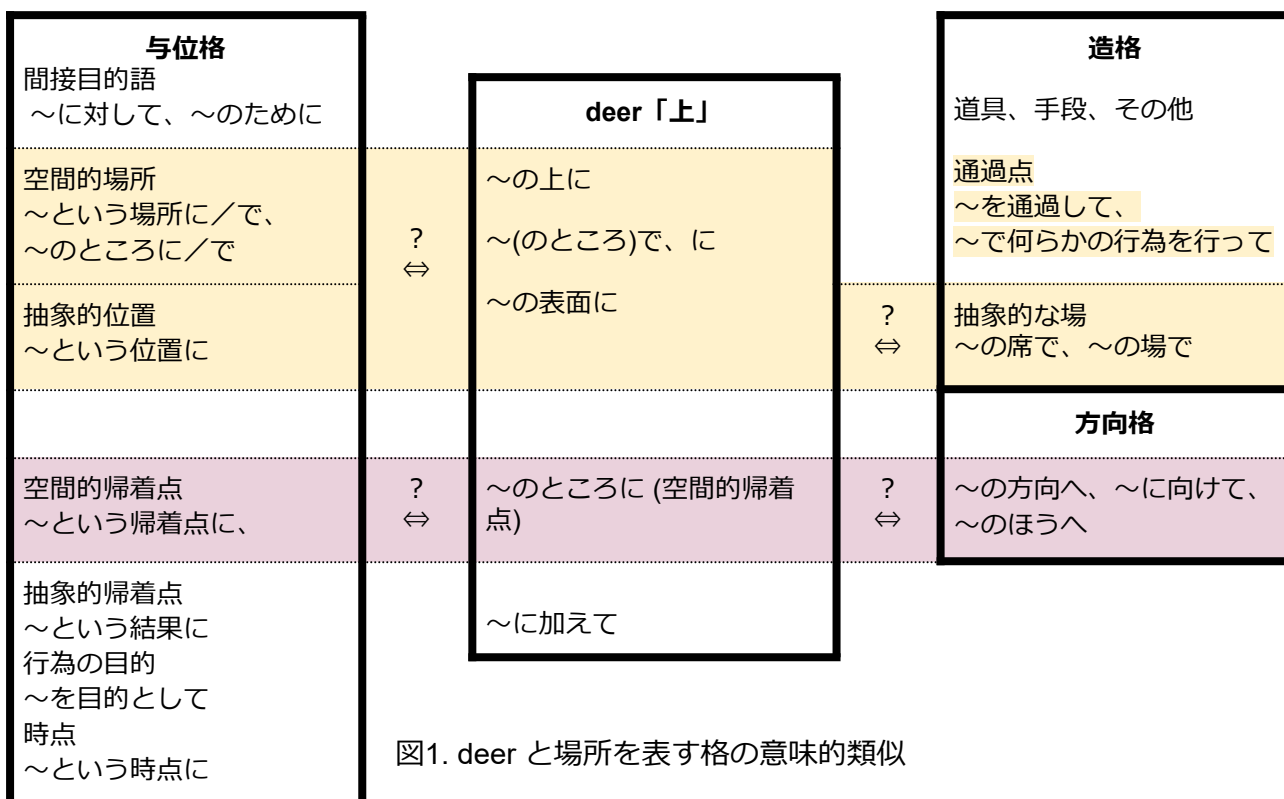


図1. deer と場所を表す格の意味的類似

3. 調査方法

deer「上」の意味と用法を明らかにするために、MNC と CEFR-Jx28 という2つのコーパスを利用して deer という語を含む用例を収集・分析する。MNC は Mongolian National Corpus の略称

で文学や新聞記事を収集した 116万語規模のウェブコーパスである。CEFR-Jx28 とは Sketch Engine 上で利用可能なモンゴル語コーパスの 1つで、ウィキペディア記事、学校教科書から成る 8,407,629語のコーパスである。現時点では東京外国語大学内部向けにのみ公開されている。その他、利用可能なモンゴル語コーパスの詳細については jamada (2023) を参照されたい。

MNC で deer という語形は 3852件検出されるが、このうち文が不完全なものを除外して無作為に300例を選び出した。この上で deer の直前の語とその文法形式、後に続く述語などによって整理した。また、後置詞として用いられた deer が与位格と置き換え可能かモンゴル語母語話者 (発表者の一人。モンゴル国出身 1989 年生まれのノルハ・モンゴル語の話者) の内省によって判断し、考察した。CEFR-Jx28 のコーパス(や、一部において Google 検索) はさらなる用例を得るために補足的に利用した。

ここでは deer という語形のみを検索し、例えば次節の表1 に見られるような諸形式は扱わない。再帰所属接辞を付した deer-ee {DEER-REFL} も検索すると 739 例検出されるが、これらは今回調査の対象としなかった。この接辞が表す再帰の意味はおそらく被支配名詞に係るもので、これは deer という語の後置詞らしさあるいは文法化の過程を示すものであると思われるが、この点については稿を改めて検討したい。

4. 調査結果と分析

本節ではまず deer「上」という語の基本的な性質について 4.1 で記述し、4.2 において deer の後置詞的な用法について検証していく。

4.1. deer「上」の基本的性質

4.1.1. 品詞

deer という語は名詞的であるとされる。2.1 で触れたように、清格尔泰 (1991) は deer「上」を時位詞として静詞類の下位に位置づけている。静詞類とは動詞類に対する概念で、山越 (2022) のいう名詞類に凡そ対応する語類である。格・数・所属といった文法範疇で特徴づけられるもので、下位には典型的な名詞も位置づけられていることから、時位詞は名詞に近いものであると考えているのであろう。

deer という語について『モンゴル語正書法辞典』を参照すると orn-y ner {地域-GEN 名前}「場所名詞」という品詞になっている。モンゴル語学の伝統において名詞類 (ner üg-s {名前 語-PL}) の下位に位置づけられる語類は ner {名前}「名詞」という語が含まれている (cf. jinxene ner {本当の名前}「一般名詞」) ことから、やはり deer が名詞に近いと考えられているものと見られる。

この deer という語は名詞的だが、奪格を除くと格接辞が付されにくい。MNC では表1 に見るように奪格形が 329 例得られる他は、与位格らしい形式が 2件得られる以外に格接辞を付した形式は検出されなかった (CEFR-Jx28 では属格の例が 2例得られる)。これは場所語という語群が、一般名詞における格に類似した別の屈折 (的な) 体系を有するためであろう (表1)。

表1. deer の格に類似した諸形式

	上に	上の	上の方へ	上のあたりを、上を通過して	上から (奪格形)
	deer	deed	deesh(-ee)	deegüür	deerees
検出数	3852	347	263	344	329
分類	名詞型	形容詞型	副詞型	副詞型	

※検出数は MNC によるもの (「上の方へ」は再帰所属接辞の付された形式を含む)

※分類は清格尔泰 (1991: 208-209) による。「上から」は名詞の奪格形と同形で分類に含まない。

表1 のうち deed「上の」は「～の上の」という意味で名詞を修飾している場合、「～」に入る名詞は属格形を取る。deesh「上の方へ」はおそらく「～よりも上」の意味で奪格名詞句を取る以外は名詞句を支配しない。これ以外の 2形式は、おそらく deer「上」と同様に裸の名詞句を支配しうる。こうした deer 以外の形式については、本発表における考察対象としない。

4.1.2. 支配

ここでいう「支配」とは、単に直前の語と deer が結びついていることを指し、具体的には直前

の語が属格形を取っている場合、語幹末に -n を取っている場合 (名詞のみ)、あるいは意味的に結び付けられていると判断できる場合を指す。意味的な結びつきは、deer を欠いても直前の語句が文中での役割を失わないことを凡その判断基準とした。

deer に支配される語は裸または属格形を取るという (向井 2006d)(2.1 参照)。しかし属格形の名詞を支配していると思われる例は少ない。属格形を支配していると思われる例として、次の (6) がある。次の (4)-(6) は CEFR-Jx28 コーパスから得られたもので、camc 「シャツ」という語について 3 種類の形式がそれぞれ検出された。

- (4) *tüün-ij xičeel-d-ee öms-dög cagaan camc deer* ▲☞☞ *temdeg bij.*
 3SG-GEN 授業-DAT-REFL 着る-HBT 白い シャツ DEER 記号 ある
 「彼が授業に着てくる白い**シャツ**には▲☞☞という記号が書いてある」
- (5) *camc-an deer=čin' jamar negen temdeg baj-dg-ijg med-ex=üü?*
 シャツ-N DEER=2SG.POSS どんな 一つの 記号 ある-HBT-ACC 知る-FUT=Q
 「**シャツ**に何か記号がついていることを知っていますか」
- (6) *jšeeel-bel zangia-taj camc-n-y deer mongol deel öms-öj jav-na.*
 例える-COND ネクタイ-PROP シャツ-N-GEN DEER モンゴル 服 着る-SIM 行く-NPST
 「例えばネクタイと**シャツの上**に伝統的モンゴル服を着ている」
 (いずれもCEFR-Jx28 の学校教科書からの用例。ただし(4)は原典を参照し一部修正した)

(4) と (5) は単に -n の有無の揺れであると考えられるが、「表面」の意味と捉えうるこれらの例と、属格を有する (6) の間の違いは必ずしも向井 (2006d) の「空中」という用語では説明しがたいものである。単に「上」(あるいはそこから派生する「外側」「年齢・地位的に高位」) の意味を明示する場合に属格形が現れるようである。deer door 「上下/上や下」のような対立概念を並立する場合にも直前に属格形が現れることから、次節以降で見えていくような deer の非「上」的な意味 (cf. [B][C]) 解釈を避けるために、属格形の名詞句で修飾し deer という語を名詞的に用いることで「上」の意味を明示しようとする方略であると思われる。

4.2. 後置詞としての deer 「上」の意味と用法

4.2.1. deer の用法の概略

まずコーパスで得られた deer 「上」を含む用例 300例は、大枠で次のように分類できる。

表2. deer の用例分類

名詞を支配する例	動詞を支配する例	形容詞的な例	副詞的な例	合計
253	16	20	11	300

その多くが名詞を支配する用法である。このうち属格形の名詞を従える 4例を除いた 249例を本稿では後置詞としての用法であると見做し、4.2.2. で検証していく。

動詞を支配する例としては形動詞接辞 (-FUT/-PERF) が付された直前の動詞を支配する諸形式がこれに該当する (7, 8)。(8) は属格接辞を含む例である。(7) の「～しているうちに」は次節 [D] で見る (18) の例に関連し、(8) は同じく「添加」の例であるようにも見える。これらの形式も後置詞的な用法の一種とみなしうるが、本発表では例を挙げるのみとし考察の対象外とする。

- (7) *teg-eed ter gajxl-yg ir-ex deer=n' sum zoo-j orxi-no.*
 そうする-ANT その そいつ-ACC 来る-FUT DEER=3.POSS 銃弾 刺す-SIM 捨てる-NPST
 「そしてそいつが**来たら**銃弾を撃ちこんでしまう」

- (8) *jum бүх-en нүд-n-ij ömnö tov todxon tus-ax-yn deer sajxan ünertej*
 もの 全て-N 目-N-GEN 前に RED はっきり映る-FUT-GEN DEER 美しい 香りがする
xüj-s-ijn utaa setgel ariutga-n xanxal-na. 「全てのものが目の前にはっきりと**映る上**
 お香 -PL-GEN 煙 心 清める-ASS 香る-NPST **に**香いお香の煙が心を清め香った」

その他に、直前の語と結びつかず、単独で「より良い」「上方へ」「以前 (の)」といった意味で用いられる例を「形容詞的な例」「副詞的な例」として判断した。

4.2.2. 名詞を支配する後置詞的な deer の用法

後置詞的な用法の後置詞 deer は与位格と交換可能な場合も多いが、「間接目的語」「時間」の意味を表す用法はない (cf. 図1)。さらに次の [A]~[D] のようなときに後置詞 deer が選ばれる。

[A] 「上」という意味が明示される場合

「~の上に」という意味で、「下」「中」など対比される位置関係がある場合には deer 「上」が使われる。より厳密には「高い位置」という意味ばかりでなく、「外側」(内側に対する)などの意味を表すこともある (cf. 例6)。

(9) *narangarvuu öndör xad-an deer als-yg širt-en zogs-ono.*
 PN 高い 岩-N DEER 遠く-ACC 見つめる-ASS 立つ-NPST
 「ナランガルヴォー (人名) は高い岩山の上で遠くを見つめて立つ」

(10) *tav xonog-ijn daraa xojor zuun šar ene davaa-n deer tuu-gaad ir-je.*
 五 泊-GEN あと 二 百 去勢牛 この 峠-N DEER 追う-ANT 来る-VOL
 「五日後に二百頭のウシをこの峠の上に追って来よう」

「座る」「置く」など、動作が及ぶ場所が典型的に「上側」である述語に対しては、やはり場所名詞句が deer 「上」で示される傾向がある。この場合、必ずしも「上」と訳出されない。

(11) *mujaan šat-an deer suu-ĵ baj-v.*
 大工 階段-N DEER 座る-SIM いる-PST 「大工は階段に座っていた」

(12) *zaxial-san xajlmag=n' ir-ĵ širee-n deer tavigd-av.*
 注文する-PERF ハイルマグ=3.POSS 来る-SIM テーブル-N DEER 置かれる-PST
 「注文したハイルマグ(乳製品でできた食品)が来てテーブルに置かれた」

[B] その表面に動作が及ぶ場合

「上」「下」「中」などの位置関係が想定しにくい名詞句でも「その表面に動作が及ぶ」設置や接触、光の反射などを表す述語の項となる場合には deer が用いられる。こうした用法は向井 (2006b) が「~の表面に」としてすでに言及している (cf. 図1)。

(13) *xacar deer=n' jum=uu magnaj-d=n' xošuu xürge-n üns-ex tödijxön*
 頬 DEER=3.POSS もの-Q 額-DAT=3.POSS 唇 付ける-ASS キスする-FUT 程度
bol-no.
 なる-NPST 「頬に、または額に唇を触れてキスするくらいである」

(14) *bi ur'd=n' am'dar-č baj-san bajšin-gijn-xaa xana-n deer čas ulaan*
 1SG 以前=3.POSS 暮らす-SIM いる-PERF 建物-GEN-REFL 壁-N DEER 真つ 赤な
budg-aar negen temdeg tav'-sn-aa sana-laa.
 絵具-INS 一つ 記号 置く-PERF-REFL 思う-PST

「私は以前暮らしていた家の壁に真つ赤な絵具で一つ印をつけたことを思い出した」

(15) *züün uul-yn xjar deer ix tüjmr-ijn tujaa nevt xarva-ĵ ...*
 東 山-GEN 山頂 DEER 大 山 火 事-GEN 光 線 貫 き 射 る-SIM
 「東の山の山頂を大 火 事 の 光 が 照 ら し て ...」

[C] 非典型的な場所を表す場合

上記の [A][B] 以外に、oč_ 「行く」などの移動動詞 (16)、存在動詞 (17) といった場所名詞句を必須項的に従える述語が、意味からして「典型的な場所」ではない名詞句を取る場合は、後置詞 deer が用いられやすい。とくにヒト名詞が deer に支配されるとき、この deer は与位格接辞に置き換えができないようである (16)。

(16) *jör-öös-öö margaaš čojnxor deer oč-iĵ xüü-lüü-gee uts-aar*
 一般-ABL-REFL 明日 PN DEER 行く-SIM 息子-DIR-REFL 電話-INS
jari-x=min'. 「なんとしても明日はチョインホル (人名) のところに行って息子
 話す-FUT=1SG.POSS に電話しないと」

(17) *ujaa-n deer=n' xed-en mor' baj-na.*
紐-N DEER=3.POSS いくつ-N 馬 ある-NPST 「馬の繋ぎ場に馬が数頭いる」

モンゴル語における必須項（「義務性の強い項」）の判定については橋本 (2015) に詳しい。橋本 (2015: 64-73) による限り GOAL, LOCATION といった意味役割を有している場合、これを必須項と捉えるのが妥当であることが多いようだが、その判定には疑問も残る。次の (18) は必須項が非典型的な場所名詞になる例でありそうだが、(19) は場所名詞句が必須項であると判断しがたい。

(18) *conx-oo ongojlg-ood conx-on deer suu-x-ad ...*
窓-REFL 開ける-ANT 窓-N DEER 座る-FUT-DAT 「窓を開けて窓のところに座ると...」

(19) *aav-yn-xaa övör deer erxel-j baj-san ...*
父-GEN-REFL 懐 DEER 甘える-SIM ある-PERF
「父親の膝の上で (lit. 懐で) 甘えていた...」

青木 (2024) は格接辞ごとに共起しやすい動詞述語などを検討したものであるが、deer のような後置詞句は調査の対象となっていない。青木 (2024: 41-44) によると与位格形の名詞句と最もよく共起するのは移動動詞であり、その他上位には動作動詞として *suu_* 「座る」、関係動詞として *baj_* 「ある」などがあるとされている。(16)-(18) もこの使用頻度を反映して現れている。

[D] その他、抽象的なもの、慣用的なもの

[A]~[C] に分類しがたい、十分に分析できなかったものをいくつかここで紹介しておく。次の例 (18) では「授業」という抽象的な意味を表す語を deer が従える例である。和訳は「~のときに」としたがおそらくこれは典型的な時間を表す名詞句には付されないもので、造格に見た抽象的な場「~の場で」に近い用例であると思われる。

(20) *ene tom xavts-an-d xataa-gaad baj-gaa-g xičeel deer xüüxd-ed üzүүл-ex*
この大きな 板紙-N-DAT 乾かす-ANT いる-IPFV-ACC 授業 DEER 子ども-DAT 見せる-FUT
ge-j baj-gaa jum=uu? 「この大きな板紙で乾かしているのを授業のときに子ども
と言う-SIM いる-IPFV もの=Q に見せようとしているのですか？」

次の例は造格の「手段」のような意味を表わしている例である。ただし例文中には造格形の名詞句が他にも用いられているので「手段」という意味役割が重複しているとは考えにくい。

(21) *xjatad üsg-eer mongol xel deer bičigd-sen nuuc tovčoon-y ex=bol ...*
漢 字-INS モンゴル語 DEER 書かれる-PERF 秘 史-GEN 原典=COND
「漢字を用いてモンゴル語を土台として書かれた秘史 (元朝秘史) の原典は...」

次の例 (22) は向井 (2006d) が言う「~に加えて」の例である。この例では「上」と解釈できないこともなく、おそらく [A] の意味がより抽象的に発展した結果として生じた用法なのであろうと思われる。(23) はウェブ上で得られた用例であるが、ひよっとすると「~加えて」の発展段階と関連する用法であるかもしれない。

(22) *ug=n' ter xün tun sodon, nad deer daxin neg xün-ijg nem-sen adil öndör.*
元=3.POSS その人 ととても目立つ 1SG DEER さらに 一人-ACC 加える-PERF 同じ高い
「元々その人はとても目立つ。私にさらに一人分足したような背の高さだ」

(23) *deel-en deer öngö xosluul-an öms-öx-öd sajxan xaragda-na=daa.*
モンゴル服-N DEER 色 ペアにする-ASS 着る-FUT-DAT 美しい 見える-NPST=SFP
「モンゴル服に色を合わせて着たらきれいだろうな」(Facebook上の靴の宣伝ページ
<https://www.facebook.com/uranudam/posts/1594509563936157/> 2024年5月16日最終閲覧)

この他、次の例のような慣用句的な表現では与位格との置き換えが不可であると判断される。用法としては、与位格の「行為の目的」に似ているように思われる。類例として *mal / aduun deer gar_* 「家畜/ウマの世話に行く」も見られる。

(24) *temee-n deer jav-ax-d-aa xürtel gar-aa xancuj-d-aa zörüül-en*
 ラクダ-N DEER 行く-FUT-DAT-REFL まで 手-REFL 袖-DAT-REFL 交わらせる-ASS
beevij-n üxeenc orgi-n jav-na. 「ラクダの世話に行くときすら手を袖に
 やる気がない-ASS 不満 噴出する-ASS 行く-NPST 入れたままやる気なく不満げに行く」

他に慣用句的な表現と見られる例に(動詞)-x-yn bosgo-n deer {-FUT-GEN 敷居-N DEER} 「～しようとしているところ」も見られた。

5. おわりに

本発表では従来「上」という意味以外はきちんと記述されて来なかった現代モンゴル語の *deer* という語について、その後置詞的な用法の意味の記述を行った。後置詞として用いられると、本来的な「～の上に」という意味の他に「～の表面に」「～に加えて」という意味があることはすでに指摘されているが、コーパスを用いて実例を示し記述を精緻化した。本稿における「非典型的な場所」を表す用法は、やはり向井 (2006d) が *deer* の意味として「～のところで、に」と記述したところに示唆されていると言える。ここには寺村 (1993 [1968]: 8-9) が日本語名詞の下位分類に係る素性として提案する「トコロ性」を思わせる性質が見て取れる。ただしモンゴル語の場合は名詞側に「トコロ性」の有無があると記述するよりは、述語動詞の意味にも応じて *deer* が与位格の代わりに選択されると見るべきであろう。

今後はさらに話し言葉を含め調査の範囲を広げ、*deer* の使われ方を検討していく必要がある。また類似の分布を見せると思われる語 *door* 「下」、*dotor* 「中」などとも比較しながら調べを進めていく必要がある。さらに今回は与位格との使い分けについて十分に明らかにできたとは言い難い。この点も、今後の課題としたい。

略号一覧 (Leipzig Glossing Rules に無いもの) ANT: Anterior, ASS: Associative, DAT: Dative-locative, DIR: Directional, HBT: Habitual, NPST: Non-past, PERF: Perfect, PN: Proper Name, PROP: Proprietary, RED: Reduplication, SFP: Sentence Final Particle, SIM: Simultaneous, VOL: Volitional

参考文献

- 青木隆浩 (2024) 「モンゴル語の格と共起する動詞・名詞の意味的特徴」 博士学位論文 (東京外国語大学).
 橋本邦彦 (2015) 「モンゴル語の補語の意味論 -格と述語との意味役割の一致について-」 北海道言語研究会 『北海道言語文化研究』 No.13. pp49-102.
 jamada jooxej (2023) *Xelnij xömrög (korpus)-t suurilsan mongol xel sudlalyn önögijn bajdal. Orčün cagijn mongol utga zoxiolyx xel bürelden togtson n'. olon ulsyn erdem šinjilgeenij xurlyx emxetgel.* Mon Edu Press. pp.48-62.
 Kullmann, Rita. and D. Tserenpil (2015) *Mongolian Grammar*. 5th edition. Kullnom.
 ムンフダラム、バスバヤル (2024) 「現代モンゴル語の場所を表す接尾辞 -(n)AA の使用について—与位格 -d/-t と対照して—」 『北方言語研究』 14. pp.79-94.
 清格尔泰 (1991) 『蒙古語语法』 呼和浩特: 内蒙古人民出版社.
 寺村秀夫 (1993 [1968]) 「日本語名詞の下位分類」 『寺村秀夫論文集 I』 東京: くろしお出版. pp3-20. (1968 『日本語教育』 12.)
 山田洋平 (2023) 「ハルハ・モンゴル語の不安定なnと後置詞」 2022年度ユーラシア言語研究コンソーシアム 年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」. 京都大学文学研究科附属ユーラシア文化研究センター.
 山越康弘 (2022) 『詳しくわかるモンゴル語文法』 [新版]. 東京: 白水社.

ウェブ上のリソース (いずれも 2024年5月15日最終閲覧)

- 『モンゴル語辞典』 *Mongol Xelnij Ix Tajlbar Tol'*. <https://mongoltoli.mn/dictionary/>
 『モンゴル語正書法辞典』 *Mongol Xelnij Zöv Bičix Dürmijn juramlasan Tol'*. <http://toli.gov.mn/>
 向井晋一 (2006a) 「与位格」 『東京外国語大学言語モジュール> モンゴル語> 文法モジュール』
<https://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/mn/gmod/contents/card/017.html>
 _____ (2006b) 「造格」 『東京外国語大学言語モジュール> モンゴル語> 文法モジュール』
<https://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/mn/gmod/contents/card/023.html>
 _____ (2006c) 「方向格」 『東京外国語大学言語モジュール> モンゴル語> 文法モジュール』
<https://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/mn/gmod/contents/card/026.html>
 _____ (2006d) 「後置詞」 『東京外国語大学言語モジュール> モンゴル語> 文法モジュール』
<https://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/mn/gmod/contents/card/028.html>

利用したコーパス

- Mongolian National Corpus. <https://www.web-corpora.net/>
 Sketch Engine. <https://www.sketchengine.eu/> (CEFR-Jx28-MONGOLIAN)